

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

理血剂 活血祛瘀剂 26

<p>かんしんにごうほう 冠心II号方</p>	<p>活血化瘀・止痛</p>	<p>赤芍 15g・川芎 15g・紅花 12g・丹参 24g・降香 12g 水煎し服用する。</p>
<p>中国医学科学院</p>	<p>&lt;主治&gt; 血瘀による狭心痛 心臓部の固定性疼痛あるいは激痛で、痛みは左肩～背部に放散する。胸骨部の圧迫感、胸苦しいなどの症候で、舌質は暗紅～紫あるいは瘀点がある。脈は洪で遅あるいは結代</p> <p>&lt;方意&gt; 本方（冠心II号方）は、冠不全、狭心症に対して新しく作られた方名であり、全て活血化瘀薬から構成されている。 丹参・川芎には明らかな冠状動脈拡張作用があり、丹参・川芎・赤芍は心筋のアノキシー抵抗性を増高し、丹参・紅花は冠状動脈の血流量を増加させる。また5薬は全て血栓形成を抑制し、その効力は赤芍&gt;丹参&gt;紅花&gt;川芎&gt;降香の順であるという。赤芍は血小板凝集を抑制し、丹参は線溶系の活性を高め、川芎は血小板表面活性を低下して凝集を抑制し、また凝集した血小板を解離させ、紅花・降香はプロトロンピンおよびトロンビノーフィブリノーゲン系を抑制する。また丹参には壊死した心筋の修復を促進する作用が認められている。 この他5薬は、全て血管拡張と血行促進の作用をもち、川芎・丹参・赤芍には鎮静、降圧作用があり、川芎・紅花は子宮収縮をつよめ、赤芍・川芎は平滑筋けいれんを緩解し、降香は胃腸の蠕動を促進し鎮痛に働くなどの作用を持つ。それ故に虚血性冠状動脈疾患だけでなく、一般的な血瘀にも応用できる。例えば急性の脳血管障害（脳血栓、脳塞栓）にも用いられ、高い治癒率が報告されているとのことである。</p> <p>&lt;参考&gt; 加減法 ショックを伴うときは、大量の人参を配合する。 脱水がみられれば、生脈散（人参・麦門冬・五味子）を併用する。 舌苔が白膩など痰湿を伴うときには、栝楼仁・薤白・半夏などを配合する。</p>	